

## 自家歯牙移植の基礎と臨床



# ～インプラントと自家歯牙移植の棲み分け～

日時 **5月11日（日）**  
**14:00～17:00**

講師 滋賀県・泉歯科医院 院長

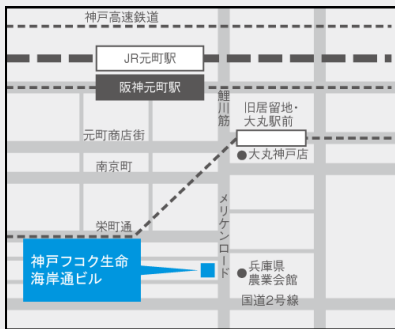
**泉 英之** 先生

会場 兵庫県保険医協会会議室

- ・神戸フコク生命海岸通ビル5階
- ・JR・阪神「元町」駅東口から南へ徒歩7分

### 【Zoom視聴の申し込み】

下記のURLまたは二次元コードからお申し込みください。案内メールが送付されます。  
<https://x.gd/sc412>



⇒協会未入会の先生はこの機会にご入会の上ご参加ください  
(入会金なし:月会費:歯科開業医5,000円、同勤務医3,000円)

\*お問い合わせは

TEL : 078-393-1809 E-MAIL : ysn@gdoc-net.or.jp

自家歯牙移植の歴史は期待と失望の歴史と言っても良いかもしれない。はじめて自家歯牙移植が脚光を浴び、研究と臨床応用が行われてきたのはインプラントが無い時代であった。外傷歯学の父である故Andreasen氏により、学問としての自家歯牙移植が確立した。しかし、インプラントの登場とともにその存在感は薄れていった。それは、インプラントに比較し適応症が少ないこと、テクニックセンシティブであることなどが主な理由である。

時が経ち、近年自家歯牙移植がふたたび注目を集めている。その理由は、インプラントの欠点と表裏一体であると考えられる。インプラントにはインプラント周囲炎のリスク、若年者における低位咬合、または生涯にわたる歯列の変化の問題があり、自家歯牙移植はこれらを回避できる。とはいえ、自家歯牙移植がインプラントにとって代わる第一選択となるものではなく、それぞれの利点と欠点を考慮したうえでの棲み分け（適応症の選択）が存在する。

今回は、インプラント治療に比較した場合の自家歯牙移植という視点から、自家歯牙移植の基礎（科学的根拠）と臨床（術式のポイント）について皆様とディスカッションさせていただきたい。（泉 記）

5月11日歯科定例研究会 参加申込書 (返信FAX : 078-393-1802)

地区〔 市区町 〕 医院名〔 〕  
TEL〔 〕 FAX〔 〕  
氏名〔 〕 職種〔 〕